

平成28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校では平成28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（橘）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

| | 国語 | | | 算数 | | |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 5年時 | 6年時 | | 5年時 | 6年時 | |
| | | A | B | | A | B |
| H24 入学 現5年 | 70.1 (1.06) | / | | 70.1 (1.04) | / | |
| H23 入学 現6年 | 60.2 (0.97) | 67.6 (0.93) | 52.0 (0.91) | 65.0 (1.00) | 74.2 (0.96) | 42.1 (0.91) |
| H28 正答率の全国比 | | (0.93) | (0.90) | | (0.96) | (0.89) |

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語科では、「漢字を正しく読む、書く」「インタビューしたメモがどのように工夫されているか」「発言を受けて、どのような質問をしていくか」「結果を基に、成果をまとめる」ことの正答率が低い。漢字の書き取りのくり返し学習など、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、インタビューの内容から意味を捉えさせ、質問することを整理させること、結果を基に、分かったことをまとめることなどの定着を図る必要がある。

・算数科では、「除法の解答を乗法を用いて確かめる」「末尾の位が違う小数の加法計算」「乗数が整数で約

分がある分数のかけ算」「1を超える割合を百分率で表す」ことの正答率が低い。除法の確かめの計算は乗法で行うことの意味を理解させることや小数の加法では位を揃えて計算することなど、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、割合では基準量と比較量の意味を理解させ百分率を求めさせることや、分数の乗法では約分の意味を理解させ確実にできるように指導していく必要がある。

【意識調査】

・国語科で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」ことの割合が県や全国平均に比べると低い。目的を明確にもたせたり、相手に伝えたいことを分かりやすくまとめさせたりする必要がある。

・算数科で「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合が高い。今後も、めあてについての見通しをもたせ、自力解決に向けた活動を充実させたり、解決に向けた式の意味をしっかりと理解させたりすることを続けていきたい。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 共通した授業展開

全職員が日々の授業において、「めあて」「言語活動」「まとめ」「ふりかえり」を大切にした学習指導を行っていく。「めあて」に対する自分の考えを確実にノートに書かせ、考えを説明したり、伝え合ったりする場を設定する。

2 ICT利活用

タブレットや電子黒板など、ICT機器を授業に活用し、児童の興味関心を高めたり、思考を助けたりするなど、指導方法の改善や向上に努める。

3 校内研究

授業研究では、グループ学年で模擬授業を設定するなど、協働体制を構築し、教師の授業力向上をめざす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 朝や放課後の時間における継続的な取り組み

- ・全学年で週に4回、朝の時間に基礎基本の学習内容の定着や集中力の育成を図るために、「花まるタイム」の時間を設定している。内容は音読、図形、計算、視写を15分間で行う。
- ・4～6年で毎朝、タブレットを使い「Syu-Chu-Train」の時間を設定し、3分間の計算問題に取り組みさせる。
- ・5、6年で火曜日の放課後に「パワーアップタイム」の時間を設定し、フォローアップ問題などを活用し、計算の補充指導を行う。

2 言語活動の充実

児童全員に、詩の内容を低・中・高学年に分けてテキストを配付し、「今月の詩」として一月ごとに内容を変えて詩の暗唱に取り組みさせる。

3 読書活動の推進

お話ボランティアによる読み聞かせや、学年に応じたお薦めの本の紹介など、読書の推進を図り、年間の貸出数が児童一人当たり100冊以上になることをめざす。